

平成30年度新型インフルエンザの診療と対策に関する研修  
2018年10月28日

於 イイノホール&カンファレンスセンター

# 感染症対策の要諦

## 新型インフルエンザ対策も含めて

- 独立行政法人 地域医療機能推進機構(JCHO) 理事長
- 名誉世界保健機関(WHO)西太平洋事務局長
- 自治医科大学名誉教授

尾身 茂

# 【目次】

**【1】最近流行した感染症の共通点は？**

**【2】世界保健規則(IHR)**

**【3】2009年のインフルエンザについて**

**【4】我が国の対策**

# 最近流行した感染症

- SARS
- 鳥インフルエンザ(H5N1)
- 新型インフルエンザ(H1N1)
- デング熱
- エボラ出血熱
- MERS

**共通点は？**

**共通点は？**

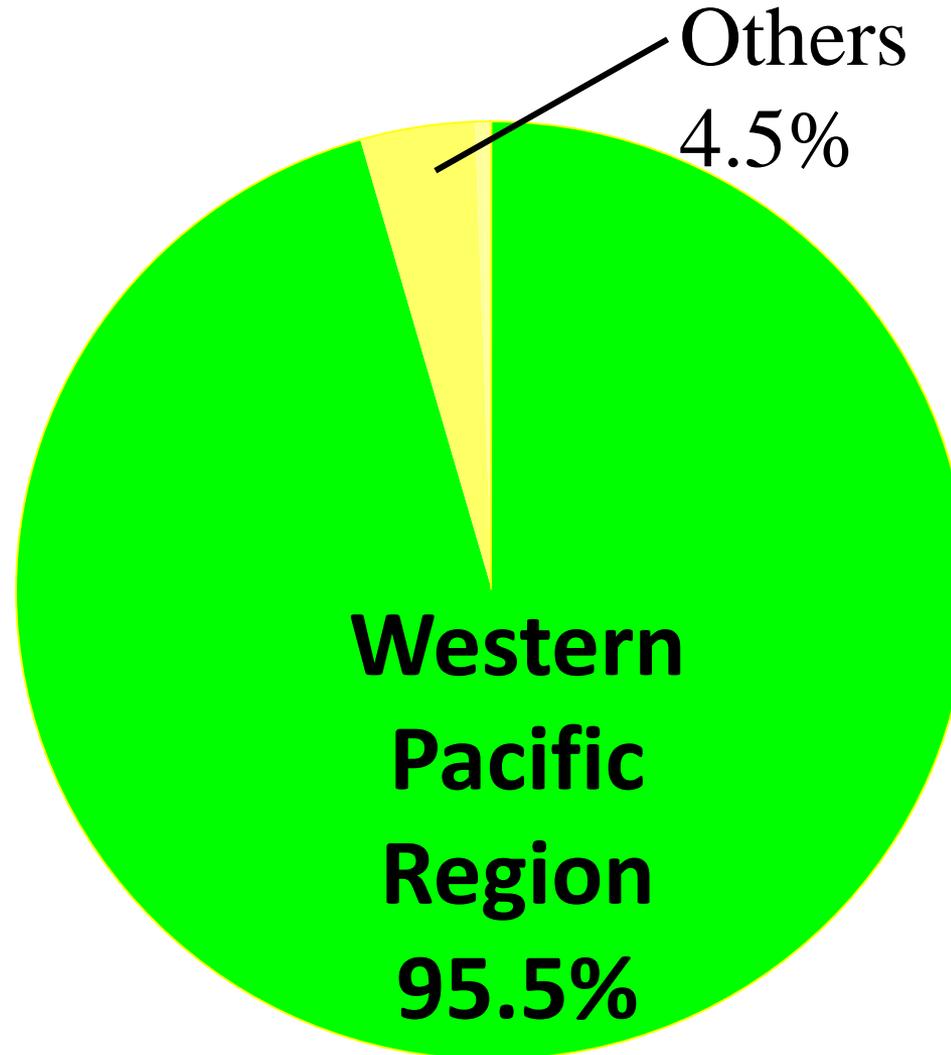
- **準備不足**
- **初動の遅れ**

SARS

21世紀最初の公衆衛生上の危機

# SARSの大部分は西太平洋地域で発生

地域別の  
SARS患者  
発生割合



# 直ちにWHOから中国へ要請

1. 詳細な情報の迅速かつ定期的提供
2. WHO調査チームの広東省受け入れ

中国 応じず・・・

**WHOの歴史上はじめての渡航延期勧告を  
香港・広東省に対して発出(2003年4月2日)**



**4月2日、ついに中国政府が  
広東省へのWHO調査団受け入れ**



SARS後、  
同様の危機を回避するため・・・

# 【目次】

【1】最近流行した感染症の共通点は？

【2】世界保健規則(IHR)

【3】2009年のインフルエンザについて

【4】我が国の対策

## 会場となった国際連盟本部(パレデナシオン)



出典: Yann with text “Yann Forget”

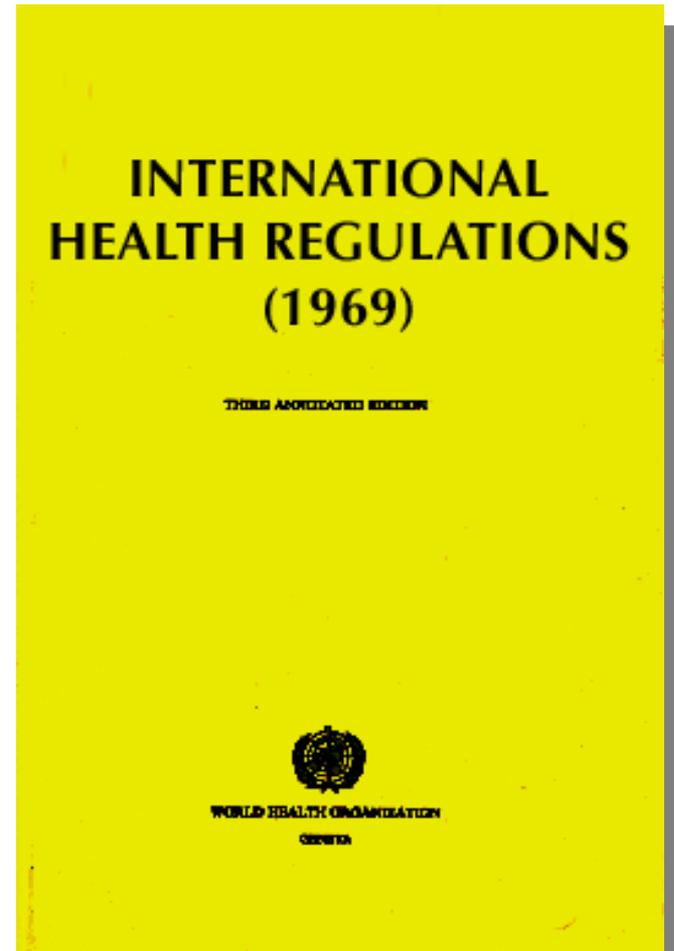
## パレデナシオンの大会議場



第66回世界保健機関(WHO)総会初日

# 世界保健規則(IHR)

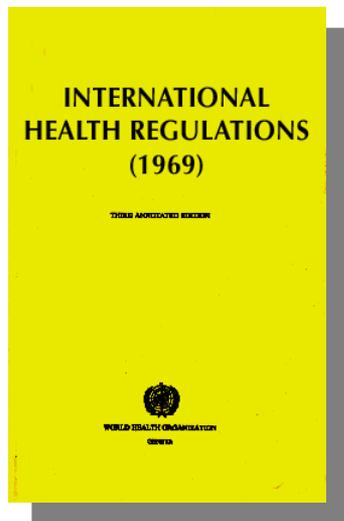
- 病気の国際的な拡散を防ぐための法的拘束力を持った合意
- WHOおよびその加盟国によって実行される
- かつてのIHR (1969) では新興感染症に対応できなかった; 3つの疾患にのみ対応
  - 天然痘
  - ペスト
  - コレラ



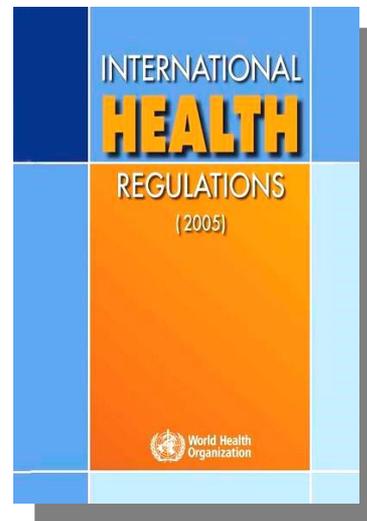
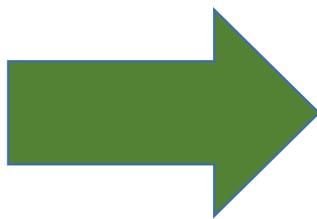
ちよつと休憩?!

時間チェック

# 改訂された国際保健規則(IHR)



1969



2005

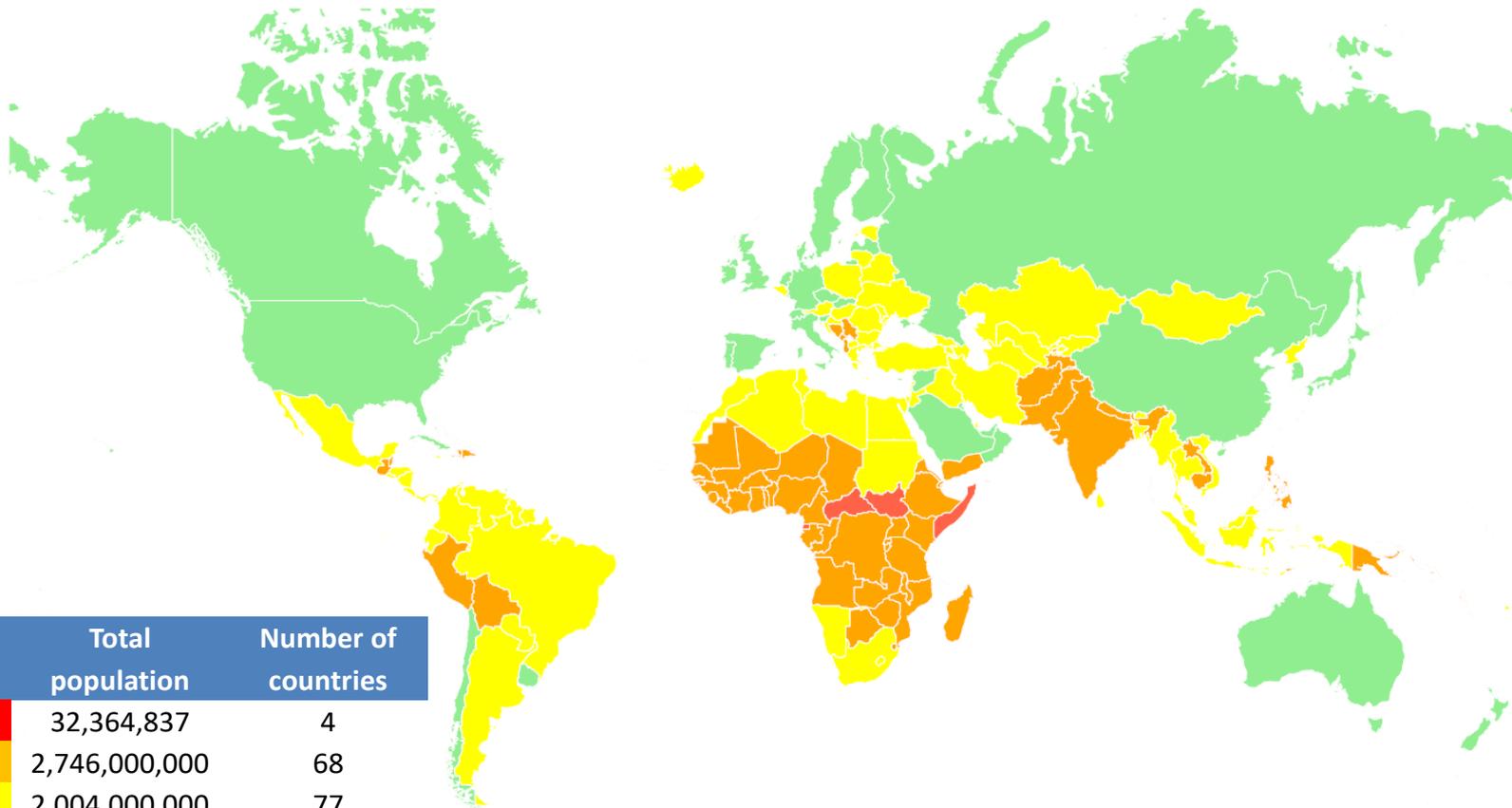
**すべての公衆衛生の脅威に対応**

# 改訂国際保健規則(IHR)の“肝”

- 普段とは様子の違う病気発生の状況を察知した場合、原因病原体の確認ができなくても速やかに国際社会に報告すること および
- 各国はそうした「状況」を探知、分析、報告する能力を獲得することに同意した。

では、エボラ出血熱大流行はなぜ起きたのか？

# IHR Core Competencies



Capacity Level	Total population	Number of countries
Level 1 (PI <30)	32,364,837	4
Level 2 (PI 30–<50)	2,746,000,000	68
Level 3 (PI 50–<70)	2,004,000,000	77
Level 4 (PI 79–<90)	2,611,000,000	44
Level 5 (PI ≥90)	0	0

# 【目次】

【1】最近流行した感染症の共通点は？

【2】世界保健規則(IHR)

【3】2009年のインフルエンザについて

【4】我が国の対策

# 各国の新型インフルエンザ A/H1N1 の重症度の比較のデータ

(2009年11月6日時点)

	入院数	入院患者発生率 (人口10万当り)	年齢の中間値	妊婦の割合	死亡数	死亡率 (人口10万当り)
北半球						
カナダ	1,999	5.8	24	5	95	2.8
<b>日本</b>	<b>3,746</b>	2.9	<b>8</b>	<b>0.3</b>	35	<b>0.2</b>
イギリス	—	—	15-24	7.5	135	2.2
メキシコ	10,337	9.3	—	—	328	2.9
アメリカ	9,079	3	21	7	1,004	3.3
南半球						
南アフリカ	—	—	—	—	91	1.8
アルゼンチン	9,974	24.5	20		593	14.6
オーストラリア	4,844	22.5	31	6	186	8.6
ブラジル	17,219	8.8	26	8.3	1,368	7
チリ	1,852	10.8	32	2.4	140	8.1
ニュージーランド	1,001	23.3	20-29	6.5	19	4.4

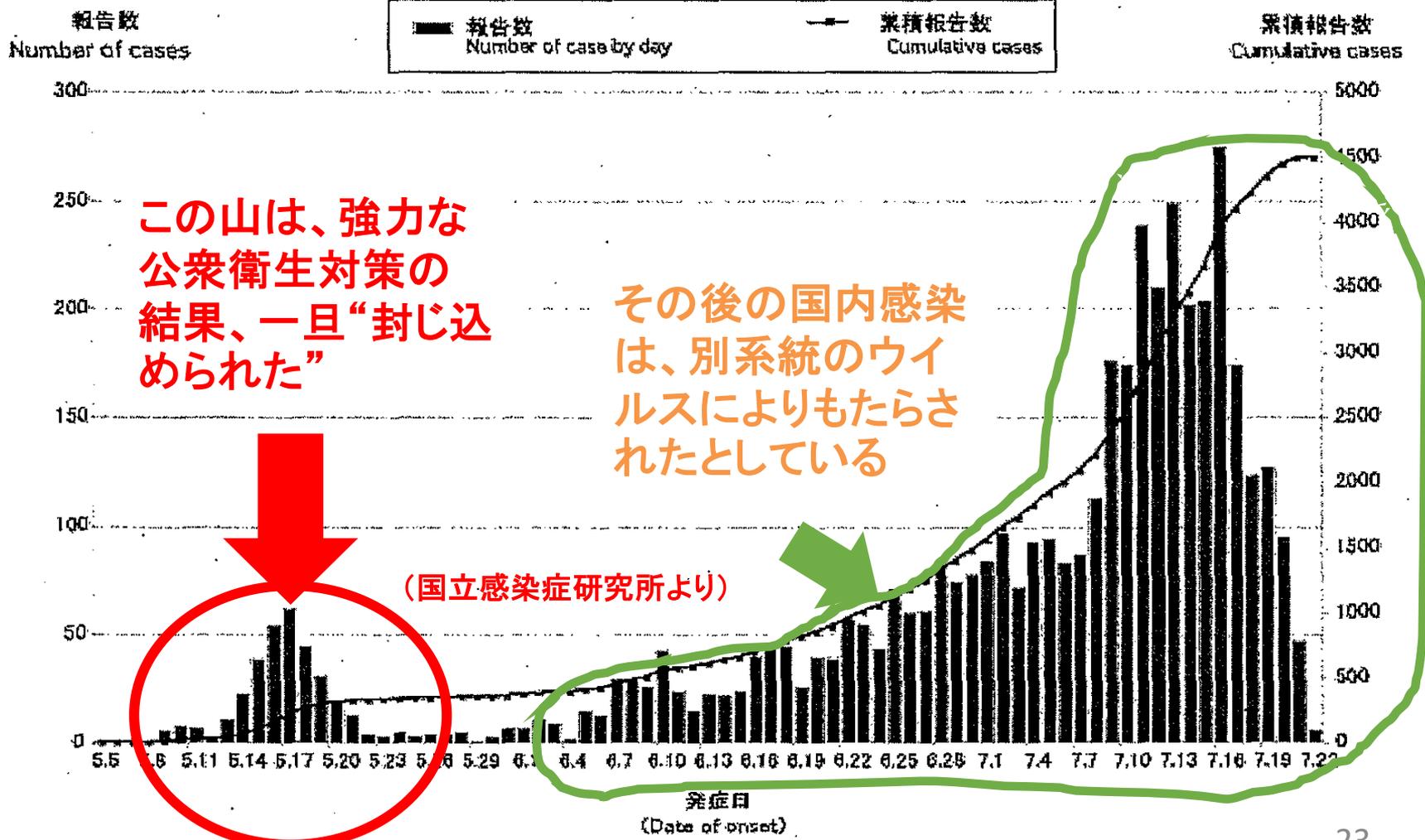
# 1. 新型インフルエンザ (A/H1N1) の臨床症状等

○ 日本における流行状況

7月22日までの累積報告数 5,022人

## 発症日別報告数 (7月22日現在)

Number of cases by date of onset (Last updated: 11:00, 22 July, ) 2009



# 答 え

- 広範囲な学校閉鎖

- 医療関係者・行政の努力

(抗ウイルス剤の早期投与:菅谷憲夫医師の研究:入院した  
子供の解析:667名の小児:89%が発症2日以内に投与)

- 一般市民の高い健康意識

# 結論 — 評価・教訓 —

**評価** 我が国の新型インフルエンザによる死亡率：世界的にみて優等生

ただし、次回の為に改善すべきことも多い

**教訓1** 感染実態の把握、及び判断、柔軟な対応

- 1: 情報の迅速な共有：必須
- 2: 危機の初期には、情報が不確か、しかし判断せざるを得ない  
判断：最悪のシナリオ想定する必要あり
- 3: その後、状況分析し、必要であれば、方針変更速やかに行う

## 教訓2

### Risk communication

- 1: 情様なmessageは正確に、しかもわかりやすく 繰り返す  
(枝葉末節にとらわれない、報道: 一般のnews 番組とは別に特別枠)
- 2: 100% 安全, zero riskは、ないこと説明
- 3: バランスの重要性: 科学の厳密性と、公衆衛生学的要請のバランス  
個ヒト情報と公共の利益のバランス

## 教訓3

### “普段”からの準備

- 1: 状況別の対応策の準備  
「例: 感染力とimpact(死亡数、入院率など)を共に考慮した対応策; 水際作戦」
- 2: 意思決定プロセスの明確化  
効果的かつ迅速な意思決定可能な仕組みの構築  
情報分析能力の改善 速やかな変更
- 3: 国と地方の役割、責任の明確化  
県との議論に、IT会議等導入
- 4: ワクチン、感染症体系の見直し

# 【 目 次 】

【1】最近流行した感染症の共通点は？

【2】世界保健規則 (IHR)

【3】2009年のインフルエンザについて

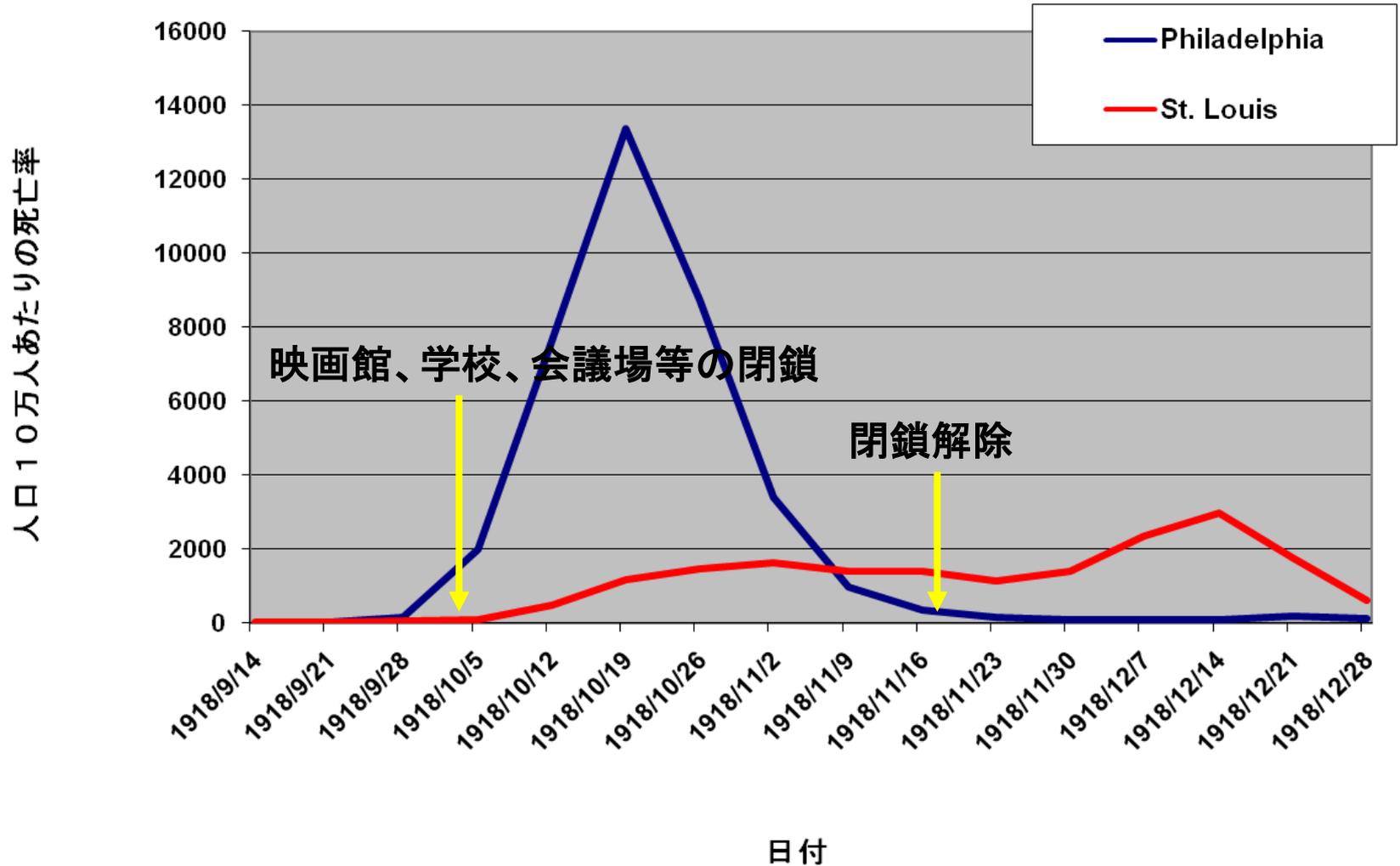
【4】我が国の対策

このため政府は

新型インフルエンザ対策特別措置法

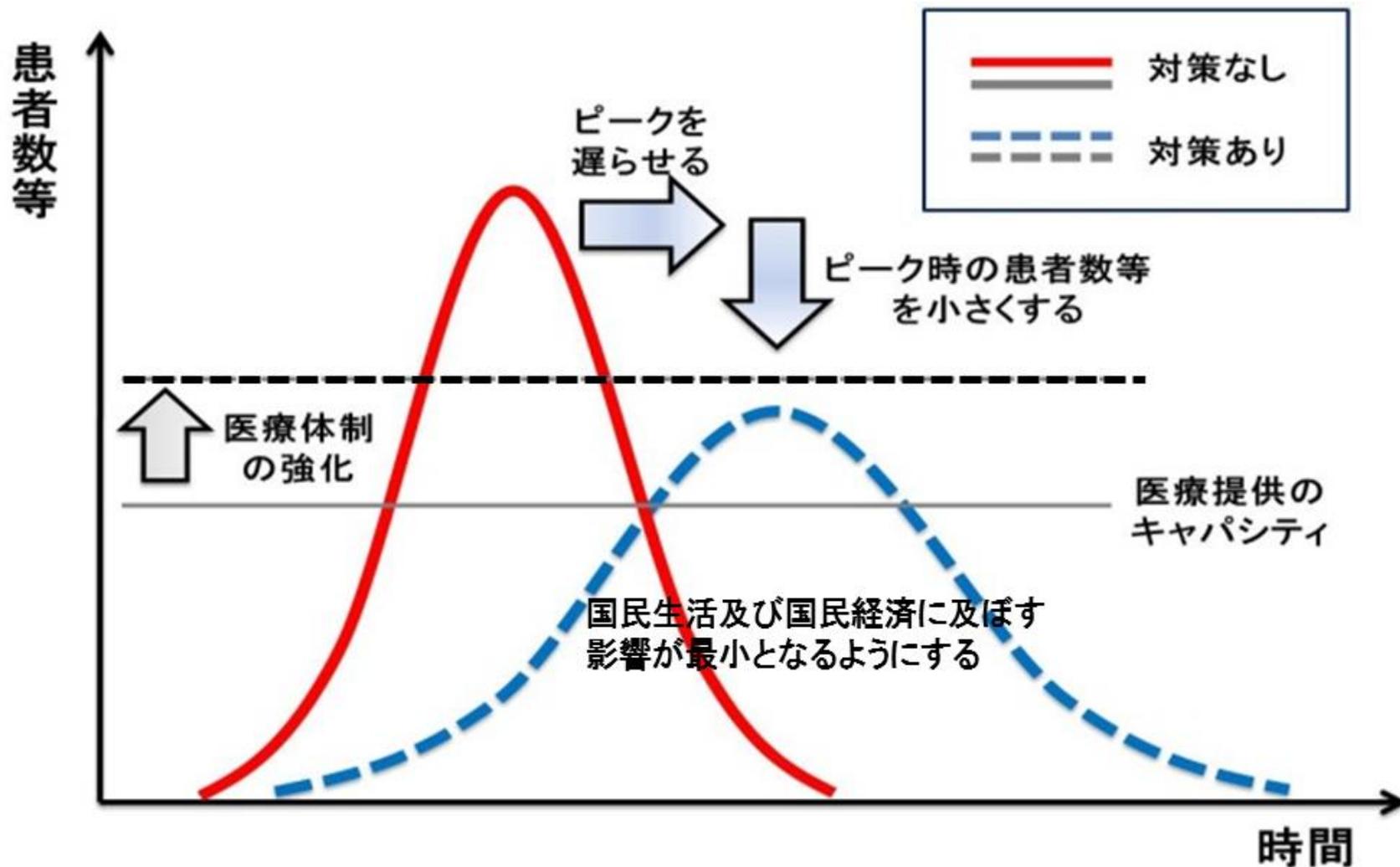
を作成。

# 1918年のスペインインフルエンザにおける フィラデルフィアとセントルイス（米国）の死亡率比較

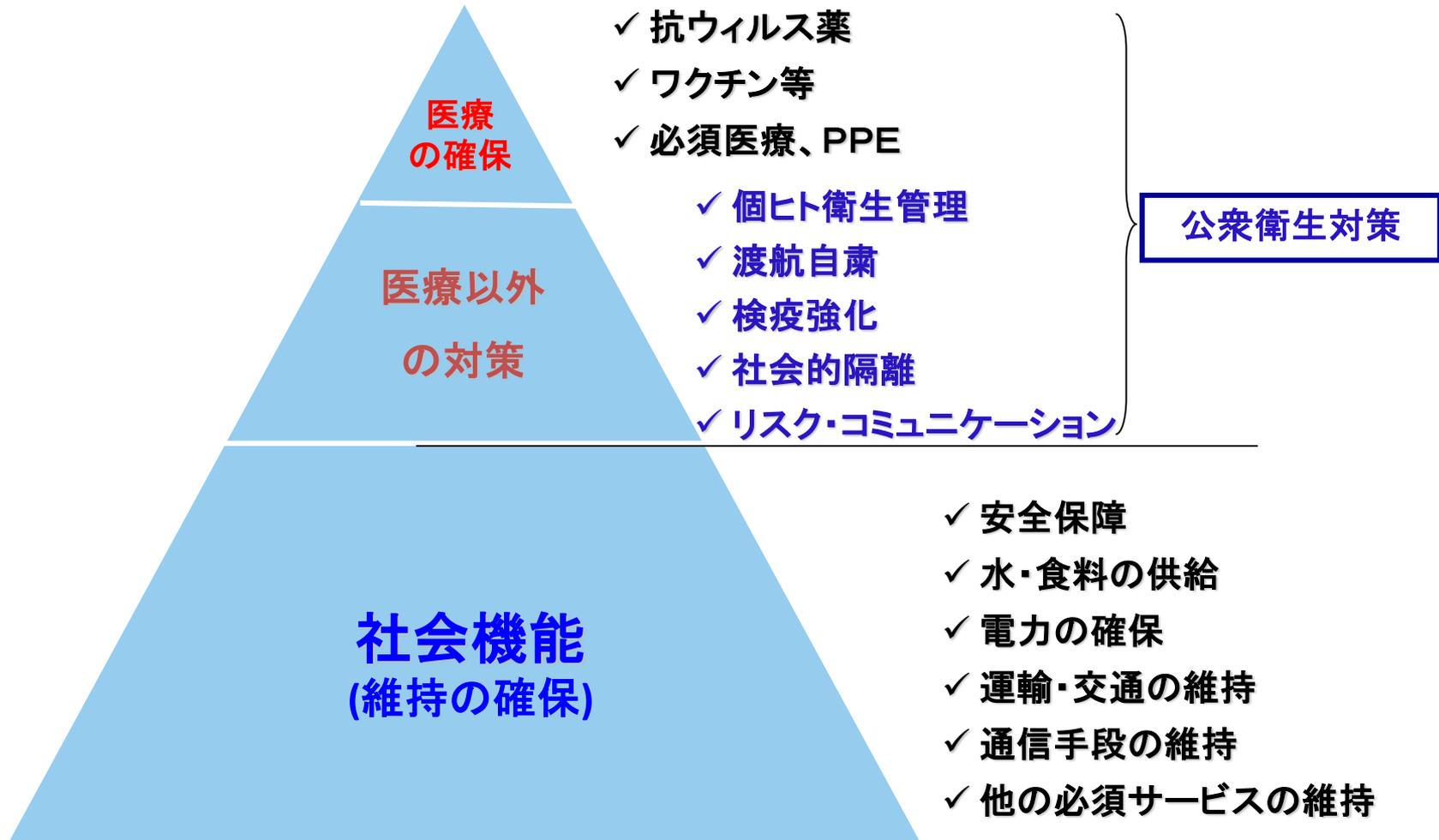


Weekly mortality data provided by Marc Lipsitch

# <対策の効果 概念図>



# 大流行に備えた対策



非常事態という認識: 選択・優先・連携



総力戦

ご清聴ありがとうございました